

FD 研修会 研修の自己評価のルーブリック（8ポイント満点）

FD 研修会（いま大学教育に求められること、教育学習観の質的転換と大学教育改革）では、①大学教育について「気づき」が共有できる②5年後の改革イメージが持てる③学内外の現状を分析・整理し、能動的学習について理解・支援できる④学生の学びのための教育プログラム開発の支援者となる、という研修目標のもと、キーワードをもとに主要な概念をつかむ・FD ツールを PDCA サイクルとして位置づける・カリキュラムマップ策定に向けた研修プログラムを開発する、を到達目標として目指す。

	模範的支援者 ファカルティ・デベロッパー（2ポイント）	授業開発者 アクティブ・ラーナー（1ポイント）	初任者 （0ポイント）
①大学教育についての「気づき」が共有できる	自分の目の前にいる学生に対して、講義・学生支援を通して、学生がどのような躓きを感じているか、自分の言葉で明らかにでき、教育開発を日々実行できる。	講義・学生支援を通して、学生の様子の変化や成長を実感できる。	講義・学生支援を通して、学生の成長に気づくことができず、改善の手立てが見当たらない。
②5年後の改革イメージが持てる	キーワードをもとに、大学教育改革に必要な FD ツール（シラバス、ルーブリック、同僚相互評価、授業アンケート）を説明でき活用できる。	大学教育改革に必要な FD ツールのいくつかについて理解できる。	FD ツールについて、必要性を理解できず、改革のイメージを持っていない。
③学内外の現状を分析・整理し、能動的学習について理解・支援できる	中教審・文科省の施策から、大学にいま求められている「学習の主体」の転換、能動的学習法の位置づけを説明でき同僚を支援することができる。	「学習の主体」の転換について理解し、能動的学習法のいくつかの必要性が分かる。	「学習の主体」は講義を行う教員にあるため、授業開発や研究を各自で行うことが必要と考える。
④学生の学びのための教育プログラム開発の支援者となる	学科カリキュラムにおける学修目標を設定し、個々の科目の重要性と関連性を説明できる。	自分の科目の学修到達目標を設定し、受講学生の到達度を測ることができる。	科目の学修到達目標ではなく、教員の教育目的に沿って講義・学生支援を行うことができる。

（8 点満点中 _____ 点）